

ワークショップ「帝国日本と民間信仰」趣旨説明

菊 地 暁*

「日本史」を語るとき、「日本列島上の人類の歴史」と「日本民族の歴史」と「日本国民の歴史」を区別しなければならない。そう主張したのは坪井洋文である（坪井 1986）。ひょっとすると坪井が最初ではないかもしれないが、至極真つ当な指摘だ。であるならば、「日本宗教史」もまた同様の区別に取り組まねばなるまい。しかも厄介なのは、区別はあるがさまざまな相関もあり、その錯綜したズレと重なり of 総体が「日本宗教史」を構成しているということだ。

「帝国」はこの課題を展開する恰好のフィールドだろう。「帝国」が政治・経済のみならず、社会・文化に及ぶ複合的かつ広汎な現象であることは、現在、人文社会科学の共通前提といって差し支えない。じじつ、日本宗教史研究においても、「帝国」を射程に収めた作業は着実に蓄積されつつある。大谷栄一『近代仏教という視座：戦争・アジア・社会主義』（2013）、川瀬貴也『植民地朝鮮の宗教と学知：帝国日本の眼差しの構築』（2009）などが近年の収穫だろう。

にもかかわらず、いわゆる「民間信仰」プロパーにおいて、「帝国」は充分には議論されてこなかった。「帝国」という領域がもたらす人間の移動が「民間信仰」に影響を与えることはもとより認識されていた。だが、政府なり教団なり、「帝国」を股にかける「大きなエージェント」とは無縁に展開される「民間信仰」のあり方が、「帝国」という視角の採用を必然化しなかったといえる。付け加えれば、宗教と非宗教のあいだに位置する「民間信仰」という現象そのものの境界性も、その捉えがたさを後押ししているだろう。いずれにせよ、「帝国」は「民間信仰」を見落としているわけだ。

2014 年 10 月 5 日に開催されたワークショップ「帝国日本と民間信仰」は、「民間信仰」研究に「帝国」という視角を方法的に挿入することで、こうした状況に風穴を開ける試みである。その結果、大別すれば、二つのアプローチが提示されたように思う。ひとつは、墓標に着目した角南聡一郎や、鳥居を手がかりとした林承緯のように、モノな微細な観察にもとづくアプローチ、もうひとつは、森田真也が取り上げた石垣島華僑の祭礼や、宮下良子を取り上げた在

* きくち あきら 京都大学人文科学研究所

日コリアンの信仰のように、人々のミクロな追跡にもとづくアプローチであり、いずれも、「帝国」がもたらす状況の複雑さ、そして、それに応じる人々の多様な戦略があぶり出されることとなった。今後、こうした「民間信仰」発の「帝国」論が、他の領域の「帝国」論と切り結び、その姿を精緻かつ立体的に描き出していくことを期待したい。

最後に蛇足。京都市下京区の東本願寺境内北側に、近年、「富士山仙女寺」が設けられた。パンフレットによれば「世界文化遺産」たる霊峰「富士山」で修行したという仙女が「韓国霊感占い」を施すという寺院だ。帝国日本とそのレガシーなしには成立しえない宗教実践が、まさしく「眼前の事実」としてここにある。こうした事象から目を背けずに、日本宗教史像の内包と外延を考え直すことが、今、われわれに求められているのだろう。

明日の事すらわからない私たち、
未来の運命を神様の言葉で!!
様々な心の痛みで悩む人々を、
暖かい神様の言葉で救います。

金銭、愛情、仕事、夫婦、恋愛の運
あなたの痛み、苦しみを霊の能力で
すっきりと解決します。

カウンセリング料金について
お一人様：5,000円(税込)
カウンセリング時間：30分～40分
完全予約制

ご予約・お問い合わせ
お電話・FAX：075-352-4351
携 帯：090-2118-3788
営業時間：朝10時～夕方5時(不定休)
〒600-8164
京都市下京区南坊町通六条下る上柳町218-2

京都市営地下鉄烏丸線「五条駅」8番出口 徒歩3分

京都千年の都に
ロミで好評な、韓国 霊感占い
富士山仙女寺

参考文献

- 大谷栄一 2012 『近代仏教という視座：戦争・アジア・社会主義』 ぺりかん社
 川瀬貴也 2009 『植民地朝鮮の宗教と学知：帝国日本の眼差しの構築』 青弓社
 坪井洋文 1986 『民俗再考：多元的世界への視点』 日本エディタースクール出版部
 山本有造編 2003 『帝国の研究：原理・構造・関係』 名古屋大学出版会